

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700733		
法人名	有限会社 とまり商事		
事業所名	グループホームはればれ	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県北諸県郡三股町稗田46-13		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4571700733-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4571700733-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・食前の口腔体操</li> <li>・毎食後の口腔ケア</li> <li>・毎日の体操・手摺りを使用して立位訓練</li> <li>・残存能力を発揮できるよう支援している</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街にあり、周りにはいくつかのスーパーや飲食店、学校、公園などがあり、閑静な場所にある。職員の対応を含め、家庭的な雰囲気である。運営においては自治会に加入し、管理者を中心に地域とのつながりを重視し、地域の行事にも積極的に参加、意見交換も密に行われている。また、管理者及び職員間の関係性が良く、職員にとって働きやすい職場との印象も見受けられた。重度化や急変時の協力医療機関との連携も充実している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは理念を理解 ミーティング時は唱和している		日々のケアに生かせるよう具体化した理念を作成している。また、職員会議時に唱和したり、ホーム内に掲示し、理念の共有と実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区公民館へ加入 通信の回覧 月一回はボランティアとの交流がある		自治会に加入し、ホーム便りを回覧したり、地域の行事などに参加し、情報交換を行っている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行い、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回、町のふるさと祭りに作品を出展している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告、外部評価報告 二か月に一回開催 情報交換をしている		ホームの運営状況の報告や地域の方からのご意見など、双方向的な会議となるよう配慮されている。また、参加している自治会長や町の担当者とも日常的に話ができる環境づくりがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回、予約者・現況報告・相談を行っている		町の担当者が毎回運営推進会議に参加し、介護保険制度の話や運用上の不明な点などを気軽に情報交換できる関係づくりがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを目指している 施錠は行っていない		玄関の施錠は行っておらず、外出傾向にある方などの意図を把握し、散歩に行くなど対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない スタッフは十分理解し、ミーティングで話し合いも行っている			

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットの提示 個々の必要性に応じ、家族への相談を支援			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族への十分な説明と理解を図っている 問題点など、その都度説明している			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、入居者・家族の思いを傾聴する また、家族との話し合いの場を設けている		家族の来訪が多く、来訪時に意見や要望などを気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見などあった場合、相談に応じている		月1回の職員会議で、運営や利用者の状況などについて、職員に意見を出してもらい、反映するよう努めている。また、管理者と職員のコミュニケーションが十分図れており、通常勤務の中でも気軽に意見が出し合える職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の勤務状況を把握して、気持ちよく働くことの出来る職場作りが出来ている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会 研修へ交代で出席している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・勉強会への参加終了後、スタッフへの情報提供を行い、共有する事で向上を図っている			

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	予約時、家族の方より状況を聞き、ホーム内での生活を説明 面接家族より希望の確認			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予約時より家族の不安など聞き、ホーム内で実践している事の説明 入居前に再確認を行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスを含め、他グループホーム施設利用の説明を行っている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望・家族の状況等を傾聴し、納得する判断をして、信頼し合える関係をもって支援している			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事参加 面会時に、家族と楽しい時間を過ごして頂く 本人の状態などを把握して頂き、家族と共に入居者の支援を行う			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に知り得た情報を、本人との会話の時忘れないように話題に出したりしている	家族の支援の下、自宅での生活状況を把握している。お墓参りや買い物など、個々の状況にあわせ、家族とも連携し、なじみの場所への外出など、一人ひとりの希望を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況・状態を把握し、状況に応じて食卓の席移動を行っている 長時間過ごされるソファの座られる位置も常に心がけ、見守りを行っている			



自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に足を運んでくださるよう声掛けしている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人が話されることを大切に、その思いを汲めるよう家族とともに支援する		日々の利用者の表情や言動の中から、意向の把握に努めている。また、利用者の情報を本人や家族から聞き取り、少しでも思いや意向に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人との会話の中で得た情報を、本人との会話の中から把握できるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタルチェック、排便チェック、体操の状態を観察 普段の本人の行動様式を観察する			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員ミーティングで情報提供や個人のケアの仕方を話し合う		職員会議で、職員から日々の状況を確認し、介護計画を作成している。また、開設当初よりセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を用い、職員の気づきや利用者の状態を具体的に記録できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録連絡ノート記録 スタッフミーティングでの情報共有によりケアに役立てる			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の病院への受診・往診・回診・訪問看護利用 ボランティア等の交流会を設けている			

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な推進会議を開き、意見交換を行いながら、地域とのつながりを大切にしている また、グループホーム通信を地域に配布清掃行事などに積極的に参加している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿った医療受診を大切にするとともに、定期的な往診や急な体調不良にも即対応し、家族や病院との連携を図っている	かかりつけ医は本人・家族の希望の医療機関となっている。隣接した協力医療機関との連携も充実しており、急変時でもすぐに対応できるよう関係づくりがなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と連携し、訪問看護により24時間対応で協力を得ている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や協力医との情報交換や相談が気軽に出来るようになっている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話し合いはされており、時期を見極めて行っている	経営者の方針により、看取りは行っていない。利用開始より、終末期や重度化の対応について逐次説明がなされ、理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	軽度の応急手当は、日常の業務経験で対応している 訪問看護と連携を図り、指示を受けながら適切な処置を行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や避難訓練を年2回実施している また、自治会を通じて、地域とも日頃より協力体制をとっている	マニュアルを作成し、消防署の協力の下、夜間想定を含め、年2回の防災訓練を行っている。また、自治会の回覧にも防災訓練の参加案内をし、地域に協力依頼を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	担当者会議を開き、利用者の情報交換を行い、利用者一人ひとりの人格を認識したうえで、自尊心やプライバシーに配慮した声掛け・対応を心がけている	利用者に対して、職員は一人ひとりの人格を尊重した、プライバシーを損ねない、優しい言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを常に図り、希望や意思を尊重し、自己決定の支援を行っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性やペースを大切に、その日の体調に合わせて可能な限り希望に沿って支援しているが、職員側のペースに合わせていただくこともある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の支援が得られる場合は、馴染みの美容室にいかれるよう支援している 化粧をされる方は、化粧品の使用状況の見守りを行っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好表を作成しており、メニューに取り入れている 利用者の調子が良い時は、野菜の皮むきや調理準備、テーブル拭きなどの片づけを職員と一緒にやっている	職員も同じ食卓を囲み、食事が楽しめるよう努めている。また、利用者の好みを伺い、メニューに取り入れている。片付けは、手伝いのできる利用者と職員が行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式の中で、利用者一人ひとりの食事摂取量・水分確保量・体重の把握を行っている 協力医療機関の栄養士の意見も参考にしながら、ホームで食事メニューを考えている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて、毎食後に口腔ケアをして頂いている 義歯の方においては、夜間は外して頂き、ポリデント洗浄を実施している			

自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じ、その日の身体的状態・状況をみながらの支援を行い、トイレでの自力排泄に向けた支援を行っている		排せつチェック表を活用したり、排せつサインを見逃さないようにして、昼間はトイレで排せつできるよう、時間誘導などの工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を取り入れ、食事も工夫をこらし、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、入浴の順番を定め、曜日の変更も対応 また、体調不良の場合は、清潔を保つため清拭を行う		入浴は基本的に週3回であるが、利用者の希望する時間や回数に柔軟に対応している。 また、入浴を拒む方は時間をずらして声かけをするなど、対応に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息して頂き、安心できる声掛けにて気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化には十分気を付け、個々の状態を確認 薬の目的や副作用、容量を把握し、支援を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた作業療法を取り入れ、生活歴や力を活かして家事に参加していただき、役割を与える事によって気分転換等の支援を行っている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じ、家族の協力を得ながら出かけられるように支援している 気分転換の為、庭を散策 個別にて買い物等を楽しんで頂くよう支援している		地域の行事に参加したり、外出ができるように家族へ働きかけも行き、日常的な外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	はればれ1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方は所持されている 必要な時は、スタッフが買い物代行している 金銭のトラブルが無いよう、スタッフ同士で確認している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の意思を尊重し、いつでも取り次いでいる 手紙もスタッフが投函を本人の代理で行い、送り先の住所についても間違いがないか確認している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節感を取り入れた利用者作品を飾ったり、居心地良く過ごせるよう配慮している	居間は利用者の往来をさえぎらない広さがあり、採光も良く、利用者が居心地良く過ごせるように工夫がなされている。ウッドデッキの設置や中庭には桜が植えられ、木のぬくもりが感じられるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のトラブルがないよう目配りや気配りをし、利用者が居心地良く過ごして頂けるよう心掛ける			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が長年慣れ親しんだ物を居室で活かしている 部屋の配置は本人や家族と相談しながら行っている	利用者の使い慣れた整理だんす、家族の写真、お位牌などが持ちこまれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を活かして頂けるように、バリアフリー・手摺りの設置をしている 歩行や車椅子自走の妨げになるような障害物は置かないようにする			